

私の博物誌

題字 石川進

第六十二回

「西へ」⑪

イルフ童画館

武井武雄の画風をいつ、どこで記憶に刻んだのかは思い出せない。独特の表情の人物のキャラクターを不思議な絵として、疲れた蛍光灯のようにチカチカと私の頭の中で点滅を始めて久しい。

六十年よりも更に時間を遡るらしいのだ。そのような漠然とした思い出のページを繰ると、既に彼の画風は私の情緒の中で、完全燃焼せずに面白い絵を描く人だと思ったり、反対に変な絵を描くおじさんだななどと、大好きとも言いつつ切れない自分の弱い精神の消化力の中で、薄笑いをしたまま存在して初老の項を迎えるまで居座り続けた。

そして、ピカリと点灯する折々の中で記憶の底に生き続けていることに改めて気付いた。

時により疲れたグロウランプの点灯が始まると、大相撲の迷った行司の差し違いの軍配のように少しだけ揺れ、小さな渦も心の中に生まれるのだった。

私は戦争中に生まれた。B-29の爆音も記憶の奥に残る。

『講談社の絵本』の数十冊が物心のついた私が目にした、いわば、精神の離乳食だった。戦前・戦中・戦後まで断続を含めて発刊されたそのシリーズは、「勸善懲惡」を根底に敷き詰めたことが理解出来、今では万華鏡のように角度を変えて、別の精神世界が厳然として存在したことを私に教えてくれる。

「鬼畜米英」や「シンデモハナサヌキクワンジュウ」などにワクワクし、樺島勝一、梁川剛一、武者絵で知られた山口将吉郎など、作家達の優れた画風は今でも目前に甦る。

当時の少年達の全てではないにしても、ある方向へ導かれざるを得なかったのだと今思う。

これ等の思い出を総ぐるみにして生きて、昭和三十九（一九六四）年正月、類焼

によって家財の総てが灰燼に帰した。心象風景は爾後、別の世界を希求するようになる。

『ゴドモノクニ』や、『キンダーブック』などからは強きを挫き、弱きを助けるなどというどこかの大国の吐きそうな陳腐な話や、絵ばかりではなかったことに気付かされた。

それ等の極めて秀れた意志の中核的役割を担ったといえる作家の一人が「武井武雄」だ。

大正十四年、自身の命名により「童画」という呼称と指針とをもって、児童のための情操を哺育、我が子のみに偏さない全ての児童のためにという深遠な思想に背中を押され、絵を描くことに生涯を捧げた人

だった。

彼は戦争という不幸な時代を成人として体験するのだが、不幸をさえエネルギーに化学変化させたこと自体、才能であり、逆風をさえ非凡な作品を生む原動力にした。不幸な時代とはいえ、生来の胆力が不幸を俾いに変質させた人間力を持った作家だと思ふ。

時代が彼の思想を希求し、苦しいけれど優れた各分野の友人に恵まれたのもこれ又、彼の天賦の才といえる。

きら星の如き光を備え、並列する多方面に亘るその道のプロフェッサー達、具体的な部分や手法は次回に譲るが、漫画でも挿絵でもなく、「童画」と自ら名付けたおびただしい仕事の内容については、もう少し誌面を頂戴して記してみたい。

というよりも、記すべきだと私は思う。

「西へ」は広島が限度であった。爾後、東へ向かい、帰途に就く道で輪郭をもたなかった「イルフ童画館」は、はっきりと私の意識を捕らえ、道を迂回させた。

この童画館は、実の父とは全くの別の父の存在を感じさせた次第だ。

※「イルフ」とは、「古い」の反対、つまり「新しい」を指す。

おしくらまんじゅう「ワンダーブック」子供の遊びカレンダー
1969年 / 1968,385 × 450, ポスターカラー



書いている人

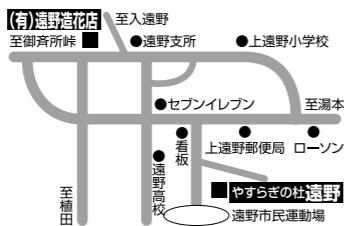


石川進

いしかわ・すすむ

一九四二年、いわき市平生生まれ。石川紋店代表。家業のかたわら、幼少から書に親しむ。書の世界で培った点・線・面と墨・紙・水の生理を追求し、石刻による印とのコラボによる抽象、具象の絵画表現を展開。書学書道史学会会員。書法探求顧問。

故人を送る厳粛な儀式。祈る心を真心こめて
やすらぎの杜遠野がお手伝い致します。



やすらぎの杜 遠野

〒972-0161いわき市遠野町上遠野字赤坂27-1
TEL.0246-89-4777

ペレットストーブ専門 好評展示中!!

地球にやさしい再生可能エネルギー

いわき産ペレット 温丸

木材を原料にした新しい燃料「木質ペレット」
1袋10kg入り 定価450円

←至古殿 ●セブンイレブン 至湯本→
●やすらぎの杜遠野
遠野高校
至湯本 ↓
●セブンイレブン
●やすらぎの杜遠野
ペレットストーブ ぬくまる 展示室
いわき市遠野町上遠野字久保作28-1
Tel.(0246)74-1288
遠野興産株式会社
本社:いわき市遠野町根岸字石田44-3
URL:http://www.toono.co.jp